

# Newsletter

*Institute of Social Safety Science*

## 地域安全学会ニュースレター No.55

### - 目次 -

|  |    |
|--|----|
| 1. 2006 年度査読論文の募集と投稿方法                                   | 1  |
| (1) 募集の会告  |    |
| (2) 査読論文投稿規程   |    |
| (3) 投稿論文形式 (執筆要領と和文原稿作成例)                                |    |
| 2. 2006 年度総会・第 18 回地域安全学会研究発表会 (春季)・<br>公開シンポジウム等開催のお知らせ | 8  |
| (1) 査読論文   |    |
| (2) 一般論文   |    |
| 3. 調査・企画委員会の 2005 年度活動報告と 2006 年度<br>活動計画                | 13 |
| 4. 役員選挙結果のお知らせ   | 15 |
| 5. 役員選挙規程の改正について   | 15 |
| 6. Information   | 16 |
| (1) 20 周年記念行事と秋季研究発表会について                                |    |
| (2) 安全工学シンポジウムのご案内                                       |    |



地域安全学会ニュースレター  
ISSS Newsletter

No. 55  
2006.4

# 1. 2006 年度査読論文の募集と投稿方法

平成 18 年 3 月  
地域安全学会 学術委員会

平成 17 年度から「論文査読システム」は電子申込・電子投稿となりました。2006 年 5 月 26 日(金)までの期間内に地域安全学会ホームページ(www.issc.info)から、論文申込(講演申込を兼ねる)と論文原稿を同時に投稿してください。会員各位の積極的な査読論文の投稿をお願いします。

## 1. 日程等

- (1) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の投稿期限  
平成 18 年 5 月 26 日(金)
- (2) 第一次査読結果の通知  
平成 18 年 8 月初旬
- (3) 修正原稿の提出期限  
平成 18 年 9 月 1 日(金)
- (4) 「地域安全学会論文集 8」への登載可否の通知  
平成 18 年 9 月下旬
- (5) 登載決定後の印刷用オリジナル原稿の提出期限  
平成 18 年 10 月 6 日(金)
- (6) 地域安全学会研究発表会での登載可の論文の発表(論文賞・論文奨励賞の審査を兼ねる)  
月日:平成 18 年 11 月 23 日(木)~24 日(金)  
場所:東京大学生産技術研究所
- (7) 論文賞・論文奨励賞授与式(平成 19 年総会に予定)

## 2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1 万円/編
- (2) 査読料の納入方法  
期 限:平成 18 年 5 月 26 日(金)までに、宛てに振り込んで下さい。  
振込先: みずほ銀行 浅草支店  
口座名: 地域安全学会 論文口座  
口座種別: 普通口座  
口座番号: 1 5 4 0 7 3 6  
振込者名: 筆頭著者  
その他: 査読料の入金確認後、論文申込の完了とさせていただきます。

## 3. 登載料の納入

- (1) 登載料(論文集 1 冊, 別刷り 50 部を含む)  
カラーを用いない場合、  
6 ページまでは 2 万円/編、10 頁を限度とする偶数頁の増頁については 5 千円/2 頁。  
カラーを用いる場合、  
事前に委員会までお問い合わせ下さい。約 5 万円/頁の追加となります。
- (2) 登載料の納入方法  
平成 18 年 10 月 6 日(金)までに、上記 2.(2)- の振込先に振込んで下さい。

## 4. その他の注意事項

- (1) 申込期間の締切り間際に投稿の集中が見込まれます。予期せぬ事態によりサーバーがダウンし、受付ができなくなる恐れも出てきます。締切り間際の投稿は極力避けていただくようお願いいたします。
- (2) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の電子投稿の概略(詳細は HP の指示に従って入力して下さい)
  - ・ 申込者の氏名、所属、連絡先、その他の事項を入力する。
  - ・ 論文題目、著者、所属、連絡先、その他の事項及び論文概要(250 文字程度)を入力する。
  - ・ その内容を確認し、必要があれば修正する。

- ・原稿ファイル（PDF 形式のみ）を指定し、送信する。
  - ・その内容を確認し、必要であれば再投稿する。内容がよければ、申込・投稿を完了する。
  - ・査読結果は申込者の連絡先に送付されますので、日程をご確認の上、確実に受領できる場所をご指定ください。
- (3) 執筆要領テンプレートの入手方法
- 「論文集の執筆要領」は、本ニュースレターに示す通りですが、電子ファイル「論文集の執筆要領」テンプレートが、地域安全学会ホームページ(<http://www.issn.info/top.html>)の「ダウンロード」にありますので、是非ご利用下さい。なお、審査の公正を高めるため、査読用論文原稿には、氏名、所属および謝辞を記載しないこととしておりますので、ご注意ください。詳細につきましては「論文集の執筆要領」をご参照下さい。
- (4) 申込だけで原稿が未提出のもの、査読料の払い込みのないもの、電子投稿論文が「論文集の執筆要領」に準じていないもの、および期限後の電子投稿は原則として受理できません。
- (5) CD-ROM 版論文集にはカラー原稿がそのまま掲載できます。しかし、印刷用論文として白黒印刷を希望する場合は、白黒印刷でも図表が鮮明になることを予め確認した上で投稿してください。
- (6) 登載決定後に提出していただく印刷用オリジナル原稿の提出(18年10月)は、例年通りの郵送になる予定ですが、CD-ROM 版論文集の作成のために査読用論文原稿の電子投稿と同様の手順による最終原稿の電子投稿をお願いいたします。詳しくは、地域安全学会 HP で順次お知らせいたします。

10月の印刷用オリジナル原稿の提出先（すべて郵送もしくは宅配のみ）

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学工学研究科 都市社会工学専攻  
地域安全学会 学術委員長 清野 純史 宛

## 査読論文投稿規定

平成11年4月(制定)  
 平成12年3月(改定)  
 平成13年3月(改定)  
 平成14年3月(改定)  
 平成16年3月(改定)  
 平成17年3月(改定)  
 平成18年3月(改定)  
 地域安全学会 学術委員会

## 1 . 論文の内容

査読論文の内容は、防災および地域安全に新たな貢献が期待できるもので、かつ結論の導出過程が適切であるものとする。なお、防災および地域安全に新たな貢献が期待できるものであれば、従来の学術論文の体裁にとらわれず、調査報告やコンピュータシステムの開発、訓練方法の提案・実施結果等も査読論文の対象とする。

## 2 . 投稿者

筆頭著者は、地域安全学会会員に限る。また、筆頭著者は、研究発表会において発表し、かつ、討議に参加しなければならない。査読終了後の修正論文における著者の変更や追加は、原則として認めない。

## 3 . 投稿先

査読用原稿および修正原稿は電子投稿、印刷用オリジナル原稿は地域安全学会学術委員会学術委員長

## 4 . 投稿期限

会告に従う。「地域安全学会論文集」は「地域安全学会梗概集」と同時期に、年1回刊行する予定であり、各年度の「地域安全学会論文集」への投稿期限は、別途、会告する。

## 5 . 査読手続き

5-1 査読実施機関：投稿された査読論文に対し、地域安全学会学術委員会（以下、委員会という）は2名の査読者による査読を行なって、「地域安全学会論文集」への登載の可否を決定する。

5-2 投稿者への問い合わせ：査読にあたって、委員会は筆頭著者に対して問い合わせ、または内容の修正を求めることができる。

5-3 査読の打ち切り：投稿された査読原稿に対する問い合わせ、または内容の修正を求めた期限以内に筆頭著者から回答がない場合には、委員会は査読を打ち切る。

## 6 . 投稿論文の作成および提出

6-1 投稿原稿の内容：投稿原稿は、原則として他の書籍・雑誌において未発表でかつ査読中ではないものとする。また、学術論文として内容が完結していることが必要であり、「同一テーマのもとで分散して投稿したもの」と判定された論文は受け付けない。

6-2 執筆要領の準拠：投稿または修正された査読原稿は、「論文集執筆要領」に準拠していなければならない。

6-3 十分な推敲：投稿または修正された査読原稿は、十分に推敲されたものでなければならない。

6-4 言語：投稿または修正された査読原稿は、和文または英文でなければならない。

6-5 論文(講演)申込と査読用論文原稿の電子投稿：地域安全学会ホームページ (<http://www.issss.info/>) の査読論文申込・投稿画面の指示に従って、論文(講演)の申込と投稿を行う。

6-6 提出原稿の種類：原稿には、査読用原稿（電子投稿）と印刷用オリジナル原稿の2種類がある。査読用原稿は、地域安全学会HPから論文申込と同時にPDFファイルで電子投稿する。この際、最終的に印刷用論文として白黒印刷を希望する場合は、当初より白黒印刷でも図表が鮮明なものを投稿しなければならない。また、審査の公正を高めるため、査読用原稿には、氏名、所属および謝辞は記載しない。

6-7 修正原稿の提出：第1次審査を通過し、修正を求められた者は、修正した論文と修正事由を、最初の投稿と同様の手順によって電子投稿する。

6-8 印刷用オリジナル原稿：印刷用オリジナル原稿は、「地域安全学会論文集」への登載が決定した後に提出する原稿であり、氏名、所属および必要に応じて謝辞が記載されたもので、オフセット印刷用の版下原稿でなければならない。これを地域安全学会学術委員会学術委員長宛に郵便または宅配便にて送付する。また、CD-ROM版論文集の作成のため、印刷用オリジナル原稿のPDFファイルを査読用論文原稿の電子投稿と同様の手順によって電子投稿する。

6-9 部数：委員会の修正要求に応じて修正した査読論文の提出部数は、送付時に折り曲げられないよう配慮してある印刷用オリジナル原稿と必要事項全てを記入した「地域安全学会査読論文送付票」を各1部、およびこれらのコピー(カラーを含む場合はカラーコピー)2部。

6-10 ページ数：図・表・写真を含め、最低6ページ、最大10ページの偶数ページとする。

6-11 図・表・写真：図・表・写真は、判読可能な鮮明なものでなければならない。

6-12 カラーの使用：文章および図・表・写真にカラーを用いる場合には、査読用原稿を投稿する際に、その旨申請すること。

## 7 . 著作権

「地域安全学会論文集」に登載された論文の著作権は著者に属し、地域安全学会は、編集著作権を持つものとする。

## 8 . 論文別刷り

「地域安全学会論文集」に登載された論文別刷りは、1編あたり50部を筆頭著者に送付する。なお、別刷りに要する費用は地域安全学会の負担とし、50部以上の要求には応じない。

# 地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例

## Guideline for Manuscript and Japanese Paper Sample of the Journal of Social Safety Science

(査読用原稿では点線で囲まれた枠内には記入しないこと。図形の貼付も不可)

地域 太郎<sup>1</sup> , 安全 花子<sup>2</sup>

Taro CHIIKI<sup>1</sup> and Hanako ANZEN<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 地域安全大学 情報工学科

Department of Information Technology, Chiiki Anzen University

<sup>2</sup> 防災科学コンサルタント(株) 防災技術部

Department of Disaster Mitigation Engineering, Bousai Kagaku Consultants Co., Ltd.

The present file has been made as a print sample for the Journal of ISSS. The text of this file describes, in the camera-ready manuscript style, instructions for preparing manuscripts, thus allowing you to prepare your own manuscript just by replacing paragraphs of the present file with your own, by CUT & PASTE manipulations. Both left and right margins for your Abstract should be set 1 cm wider than those for the text of the article. The font used in the abstract is Times New Roman, 9pt, or equivalent. The length of the abstract should be within 7 lines.

**Key Words** : three to six words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line, Times New Roman, italic, 9 point font

### 1. はじめに

この「地域安全学会論文集の執筆要領と和文原稿作成例」は、参考文献<sup>1)</sup>を参考に、「地域安全学会論文集」の印刷用オリジナル原稿作成の指針を示したものです。

この電子ファイル(Word 2000)そのものは、地域安全学会論文集の完全版下原稿(和文)を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。と同時に、版下原稿そのものの体裁(A4)をとっているため、このファイルの中の文章をこれから書くようにしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

細部について詳細に記述してありますが、多分野にわたる地域安全学会会員の学問分野を考慮し、参考文献の書き方等については、それぞれの学問分野の慣例を尊重することを前提としています。学術委員会としては、「この『査読論文執筆要領』に沿っていない」という理由のみで、「登載不可」とはしない方針です。ただし、公平を期すために、1ページ当り3,000字程度で**10ページ以内**という規定は守っていただきます。

### 2. 用紙と基本構成

査読用原稿および印刷用オリジナル原稿は、A4判で提出して下さい。査読用原稿は、

- ・ 題目(和文および英文)
- ・ アブストラクト(英文)
- ・ キーワード(英文)

- ・ 本文(和文または英文)
- ・ 補注(必要な場合)
- ・ 参考文献

の順に作成して下さい。

**査読の公正を高めるために査読者には著者名を伏せて査読原稿を送付しますので、上記の点線で囲まれた著者名(和文および英文)および所属名(和文および英文)の部分は記入しないでください。上から図形を貼付して伏せることも不可です。謝辞も同様に空欄にしてください。**

**また、参考文献として論文中に引用する場合は、「著者らは」など末尾の参考文献と関連して著者名がわかるような記述は避けてください。**

平成17年度から、電子申込・電子投稿となりましたので、期間内に地域安全学会ホームページ(<http://www.issss.info>)から、論文申込(講演申込を兼ねる)と論文原稿を同時に投稿して下さい。

査読の結果、修正をお願いすることがあります。

登載決定後は、上記の点線で囲まれた所定の部分に著者名(和文および英文)および所属名(和文および英文)を追記した印刷用オリジナル原稿とコピー2部を送付して下さい。なお、点線の枠は削除して下さい。

### 3. 論文送付票

地域安全学会ホームページの査読論文申し込み画面で、

- ・ 題目(和文および英文)

- ・筆頭著者氏名（和文および英文），所属（和文および英文），および連絡先（郵便番号，住所，e-mail アドレス，電話番号，ファックス番号）
- ・連名著者全ての氏名・所属（和文および英文）
- ・原稿枚数，図・表・写真の枚数，カラー使用の有無に全てを入力し，送信して下さい．同時に，PDF 形式とした査読論文を送信して下さい．

#### 4．レイアウト等

レイアウトは，本要領に従って下さい．ただし，使用するソフトウェアやプリンターの違いによって，文字の大きさや字体，レイアウトの寸法などに若干の差異が生じて構いません．しかし，1 ページ当りの字数に大幅な増減がある場合には，レイアウトの修正をお願いすることがあります．

##### (1) マージン等

- ・上下：各 20mm，左右：各 20mm  
（ただし、1 ページ目のみ上：30mm）
- ・二段組み本文の段組間隔は 8mm

##### (2) フォント等

フォントは、原則として、以下の通りとします．

- ・題目：和文はゴシック 14pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．  
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
- ・著者名：和文は明朝 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．  
英文は Times New Roman 12pt，中央揃え，左右各 30mm のマージン．
- ・著者所属：和文は明朝 9pt，左揃え 30mm のマージン．  
英文は Times New Roman 9pt，左揃え 30mm のマージン．
- ・アブストラクト：英文 Times New Roman 9pt，左揃え，左右各 30mm のマージン．
- ・キーワード：Times New Roman, italic, 9pt, 3 - 6 語，2 行以内，左右各 30mm のマージン．  
“Key Words” はボールドイタリック体．
- ・本文：明朝 9pt，行替えの場合は 1 字下げ．
  - 章の見出し：ゴシック 10pt，左寄せ
  - 節，項の見出し：ゴシック 9pt，左寄せ
  - 図，表，写真のキャプション：ゴシック 9pt，中央揃え
- ・補注，参考文献の指示：明朝 9pt の右肩上付き 1/4 角を原則としますが，各学問分野の慣例に従っても構いません．
- ・補注(必要な場合)：“補注”はゴシック 10pt，左寄せ，補注自体は，明朝 8pt．
- ・参考文献：“参考文献”はゴシック 10pt，左寄せ．  
参考文献自体は，明朝 8pt．

##### (3) 行数および字数

###### a) アブストラクト

7 行以内として下さい．

###### b) 本文

二段組みとし，一段当りの幅は 81mm, 1 行当り 25 字，

行間隔は 4.0mm とし，1 ページ当り 60 行を標準として下さい．したがって，文章のみのページでは 1 ページ当り 3,000 字が標準的な字数となります．

##### (4) 総ページ数

題目から参考文献までを含めて，最低 6 ページ，最大 10 ページの偶数ページとして下さい．

参考文献リストのあとに 1 行空けて，電子申込・投稿した日を投稿受付年月日として，右詰めで書いて下さい．  
登載が決定した場合には，最終原稿に登載が決定した日付を登載決定年月日として，投稿受付年月日の下に記載してください．

#### 5．文章および章，節，項

##### (1) 文章の書き方

文章は口語体によって，とくにカタカナ書きや英文を必要とする部分以外は，漢字まじり平仮名書きとして下さい．私的な表現，広告・宣伝，特定の個人・組織を誹謗する表現は避けて下さい．

##### (2) 章，節，項のタイトルの書き方

章，節，項の見出し記号と前後の行空け等は，以下の通りとして下さい．

- ・章：“1 ... 9 .”，前 2 行空き，後ろ 1 行空き．
- ・節：“(1) ... (9)”，前 1 行空き，後ろ行空き無し．
- ・項：“a) ..... z)”，前後行空き無し．

#### 6．式，記号および単位系

##### (1) 記号等の使い方

式や図に使う文字，記号，単位記号等はできる限り常識的な記号等を用い，必要に応じて記号等の一覧を付けて下さい．

##### (2) 数式

数式は，式の展開や誘導部分を少なくしてできるだけ簡潔にまとめ，必要に応じて本文中で説明して下さい．また，数式には，式の番号を “[1] ..... [9]” とし，右寄せで付けて下さい．

##### (3) 単位系

単位は，原則として国際単位系：SI<sup>(1)</sup>を用いて下さい．

#### 7．図，表，写真

##### (1) 図，表，写真の体裁

図，表，写真は，原則として，モノクロームとして下さい．ただし，カラーを使用する場合には，規定の登載料の他にカラー印刷の実費を納めていただきます．

##### (2) 図，表，写真中の文字，キャプション等

図，表，写真は，最後にまとめて配置するのではなく，関連のある文章の近くに配置して下さい．

図，表，写真中文字やキャプション等は，本文と同じ言語を用いて下さい．

図，表，写真には，それぞれ一連番号を付けて下さい．

表のキャプションは上に、図および写真のキャプションは下に付けて下さい。

### (3) 図、表、写真と文章との関係

図、表、写真をページの一番上または一番下に配置する場合以外、上下 1 行ずつ空けて下さい。図、表、写真は一段のみ、二段抜きのいずれでも構いませんが、図、表、写真の左右には本文を組み込まないで下さい。

図、表、写真は、本文と同じ方向で組み込むことを原則とします。ただし、1 ページ全体を 1 つの図、表、写真とする場合は、本文の方向から 90° 回転することができます。

### (4) 写真について

査読用コピー原稿を提出する段階ではコピーで構いませんが、印刷用オリジナル原稿では印画紙（光沢紙）に焼き付けたものを所定の位置に貼り込んで下さい。

### (5) 図、表、写真の引用について

図、表、写真を他の著作物から引用する場合には、出典を必ず明記し、著作権法に抵触しないよう、著者の責任において原著者等の了解を得て下さい。

## 8. 補注について

本文中の脚注や注はできるだけ避け、本文中で説明するか補注として本文末尾において下さい。ただし、それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません。

補注とする場合は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、明朝 9pt の上付きで示して下さい。

## 9. 参考文献について

参考もしくは引用した文献は、順番に“(1) …… (9)”の番号を付け、本文中では明朝 9pt の上付きで引用して下さい。末尾の“参考文献”の記述内容は、全ての著者、論文名、雑誌名または書名、巻号、ページ、発行所、発行年の順に記載して下さい。ただし、これらすべての記載があれば、それぞれの学問分野の慣例に従っても構いません。

著者が 3 名以上の場合に限り、第 1 著者のみを記載しあとを“他”または“et al.”としても構いません。

原稿受付の段階で登載が決定していない論文は引用できません。公表されていない論文については、査読に際して提出いただく場合もあります。

## 10. 印刷用オリジナル原稿

「地域安全学会論文集」への登載を可とされた論文は、定められた期日までに、印刷用オリジナル原稿を提出していただきます。

印刷用オリジナル原稿とは、そのままオフセット印刷にかけられる完全な体裁に整えられた原稿を指します。

これらの条件に合っていない場合には、登載できない場合がありますのでご注意ください。

なお、CD-ROM 版論文集用に、別途、査読用論文

原稿の電子投稿と同様の手順で、最終原稿の電子投稿をお願いいたします。CD-ROM 版はカラー原稿がそのまま掲載できます。

## 11. 著作権と著者の責任

「地域安全学会論文集」に登載された個々の著作物の著作権は著者に属し、原稿の内容については著者が責任を持つこととなります。したがって、印刷後発見された誤植や内容の変更はできません。誤植の訂正や内容の変更が必要な場合は、学術委員会の了承を得た上で、著者の責任において、文書で、当該論文が登載されている「地域安全学会論文集」所有者に周知して下さい。

## 12. その他

### (1) 投稿受付年月日

電子申込・投稿が完了した日付を投稿受付年月日とします。

### (2) 登載決定年月日

登載が決定した日付を登載決定年月日とします。

### (3) 登載決定

査読を経た原稿が、本「査読論文執筆要領」に合致していると学術委員会が認めた時点で、登載決定を事務局より通知します。

### (4) 査読者等の公表

個々の論文についての査読者名および査読内容は公表しません。

### (5) 英文論文への適用

本文を英文とする論文の執筆要領は、本文が和文であることを前提として作成した本「査読論文執筆要領」に準拠して下さい。しかし、英文の場合は、和文のタイトル、著者名、所属は不要です。

本文のフォントは、Times New Roman 9pt を基本として使用して下さい。

## 補注

### (1) 国際単位系

SI は、1960 年の国際度量衡総会で採択され、メートル法の単位をもとに、現代の科学技術および一般の社会活動の諸分野で共通に使用できるよう編成された実用的な単位系で、以下のような長さ、質量、時間、電流、温度、物質質量、光度の基本単位があります。

|              |              |
|--------------|--------------|
| 長さ：メートル(m)   | 質量：キログラム(kg) |
| 物質質量：モル(mol) | 時間：秒(s)      |
| 光度：カンデラ(cd)  | 電流：アンペア(A)   |

また、10 の整数乗倍の単位を作るために以下のような SI 接頭語が定められています。

|                  |                |                   |
|------------------|----------------|-------------------|
| $10^{24}$ ：ヨタ(Y) | $10^3$ ：キロ(k)  | $10^{-9}$ ：ナノ(n)  |
| $10^{21}$ ：ゼタ(Z) | $10^2$ ：ヘクト(h) | $10^{-12}$ ：ピコ(p) |

|                    |                           |                      |
|--------------------|---------------------------|----------------------|
| $10^{18}$ : エクサ(E) | $10^1$ : デカ(da)           | $10^{-15}$ : フェムト(f) |
| $10^{15}$ : ペタ(P)  | $10^{-1}$ : デシ(d)         | $10^{-18}$ : アト(a)   |
| $10^{12}$ : テラ(T)  | $10^{-2}$ : センチ(c)        | $10^{-21}$ : ゼプト(z)  |
| $10^9$ : ギガ(G)     | $10^{-3}$ : ミリ(m)         | $10^{-24}$ : ヨクト(y)  |
| $10^6$ : メガ(M)     | $10^{-6}$ : マイクロ( $\mu$ ) |                      |

## 参考文献

- 1) 土木学会論文編集委員会：土木学会論文集投稿の手引, 論文集編集委員会関連資料, 土木学会, pp.8-22, 1998.
- 2) Kanamori, H., Aki, K. and Heaton, T.: Real-time seismology and earthquake hazard mitigation, Nature, Vol. 390, pp. 461-464, 1997.

(原稿受付 2006.MM.DD)

(登載決定 2006.MM.DD)



## 2. 2006 年度総会・第 18 回地域安全学会研究発表会（春季）＜一般論文発表会＞・公開シンポジウム等開催のお知らせ

### 南海地震に備える沿岸の地域社会

愛媛県愛南町御荘で 2006 年度 地域安全学会総会および公開シンポジウム等を開催します。今年度も総会にあわせて、第 18 回地域安全学会研究発表会（春季）＜一般論文発表会＞を行いますので積極的なご参加をお願いします。

#### 第 18 回地域安全学会研究発表会（春季）および総会等関連行事

場所：愛媛県愛南町御荘文化センター

（愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城 3 0 6 3 - 1 電話 0 8 9 5 - 7 3 - 1 1 1 1）

第 18 回地域安全学会研究発表会（春季）＜一般論文発表会＞

日時：2006 年 5 月 19 日（金）15：20～18：30

現地見学会

日時：2006 年 5 月 20 日（土）8：30～11：00

理事会

日時：2006 年 5 月 20 日（土）11：10～11：40

総会

日時：2006 年 5 月 20 日（土）11：50～12：30

5 月 20 日（土）昼食は、弁当を予約する予定です。（1,000 円を予定）

総会への出欠は今回同封した返信用葉書でご回答ください。

上記の時間は論文発表数により多少の変更があるかもしれません。

#### 懇親会

場所：ホテル青い国

日時：2006 年 5 月 19 日（金）19：00～21：00

会費：一般（5,000 円）学生（2,000 円）

## 公開シンポジウム「南海地震に備える沿岸の地域社会」

場所 愛南町 御荘文化センター

日時 2006年5月20日(土) 13:00-15:00

主催 地域安全学会, 愛媛地震防災技術研究会, 愛南町

後援 愛媛県

開会挨拶 翠川三郎(地域安全学会会長/東京工業大学教授)

### 講演

「南海地震の経験」 中平幾一(愛南町在住)

「1・17防災未来賞(「ぼうさい甲子園」)中学生の部 ぼうさい大賞」受賞講演 (愛南町中浦中学校)

### パネルディスカッション

#### コーディネータ

森 伸一郎(愛媛地震防災技術研究会会長, 愛媛大学助教授)

#### パネリスト・話題提供

「主旨説明」

「南海地震のゆれ」

森 伸一郎(愛媛地震防災技術研究会会長, 愛媛大学助教授)

「南海地震の津波」

村上 仁士(徳島大学教授)

「災害に強いまちづくり」

小村 隆史(富士常葉大学助教授)

「地域住民との自主防災地図作り」 須賀 幸一(愛媛地震防災技術研究会幹事長, 芙蓉コンサルタント)

「自主防災地図を作って」

清水岩門(愛南町久良地区総区長)

「国が地域に期待する防災方策」 重川希志依(富士常葉大学教授)

### ディスカッション

#### まとめ

閉会挨拶 谷口長治(愛南町町長)

## 参加費

|                     | 参加費                       | 梗概集                               |
|---------------------|---------------------------|-----------------------------------|
| 会員                  | 3,000 円<br>(講演梗概集 1 冊を含む) | 参加者は 1 冊進呈<br>(追加購入は 3,000 円 / 冊) |
| 一般論文発表者<br>(筆頭著者のみ) | 無料                        | 1 冊進呈<br>(追加購入は 3,000 円 / 冊)      |
| 会員外                 | 5,000 円<br>(講演梗概集 1 冊を含む) | 参加者は 1 冊進呈<br>(追加購入は 3,000 円 / 冊) |
| 愛媛県民の方              | 無料<br>(講演梗概集は別途購入)        | 3,000 円 / 冊                       |

## 会場へのアクセスと宿泊 等について

### アクセス

#### 往き

##### (1) 航空便

下記であれば皆様、無理が無いと思います。

東京(羽田) 松山

ANA 9:30 10:55

名古屋(中部) 松山

ANA 8:00 9:25

大阪(伊丹) 松山

JAC 9:20 10:25

ANA 9:40 10:30

JAC 10:25 11:20

##### (2) JR(片道運賃1,750円+特急1,150円)

松山空港から松山駅までは、空港から発着しているリムジンバスで約15分

松山駅 宇和島駅

11:17 12:37

飛行機の遅れや昼食を考えると無理があると思われます。

12:18 13:38

こちらがお勧めです。

##### (3) バス(片道1,400円)

宇和島 御荘

13:40 14:53

乗り換え時間が厳しいが、列車 改札 バス乗車までは至近距離。

寄り道はできません。特にトイレはJR車内で済ませておく。

御荘バス停~御荘文化センターは徒歩5分程度。

#### 帰り

##### (1) 御荘文化センター バス停(御荘)は徒歩5分程度。

公開シンポジウムは15:00終了予定。

##### (2) バス

御荘 宇和島

15:45 16:56

バス停にはトイレは無く、文化センターで事前に済ませておく。

##### (2) JR

宇和島 松山

17:06 18:28

##### (3) 航空便

松山 東京(羽田)

ANA 19:15 20:35

松山 名古屋(中部)

ANA 20:40 22:00

松山 大阪(伊丹)

JAC 19:30 20:20

## レンタカー

(1) 松山空港(空港～レンタカーの送迎は各自申し込んでください)

ジャパレン 089-973-9554

マツダレンタカー 089-972-8371

日産レンタカー 089-974-2341

オリックスレンタカー 089-905-6388

トヨタレンタカー 089-972-6100

(2) 宇和島駅(宇和島駅徒歩1分)

トヨタレンタカー 0895-23-0708

## 宿泊・懇親会・見学会・昼食の予約

下記の予約を事務局で受け付けます(～4月30日までをお願いします)

(1) 宿泊(ホテル青い国)

シングル・・・40室 一人7,035円(朝食込み)

ツイン・・・2室 一人7,035円(朝食込み)

和室(6畳)・・・3室(3人の場合) 一人5,985円(朝食込み)

(2人の場合) 一人7,035円(朝食込み)

和室(10畳)・・・1室(5人の場合) 一人6,405円(朝食込み)

(2) 懇親会(一般5,000円、学生2,000円)

(3) 現地見学会の参加

(4) 20日(土)の昼食(1,000円の予定)

## その他

変更事項、研究会発表プログラム等の最新情報は、学会ホームページをご覧ください。

## 宿泊申込書

宿泊をお申し込みの方は、下記表にご記入の上、ワードファイルをメールに添付、またはファックスで事務局までお送り下さい。

和室はグループ単位でお申し込み下さい 1日目終了後に懇親会がございます

送付先：[iss@iss.info](mailto:iss@iss.info)

F A X : 0 3 - 3 6 1 5 - 4 6 3 8

\* 宿泊料金 (全室朝食込み) \*

シングル (40室) お一人様... 7,035円

ツイン (2室) お一人様... 7,035円

和室 (6畳 / 3室)

3人で利用の場合 お一人様... 5,985円

2人で利用の場合 お一人様... 7,035円

(10畳 / 1室)

5人で利用の場合 お一人様... 6,405円

和室のご利用につきましては、お申し込み多数の場合ご希望に添えない場合がございます

**締切り 4月30日(必着)**

ご希望の欄に○をご記入ください

|         |      |  |
|---------|------|--|
| シングル    |      |  |
| ツイン     |      |  |
| 和室(6畳)  | 3人利用 |  |
|         | 2人利用 |  |
| 和室(10畳) | 5人利用 |  |

ご利用される方のお名前をご記入下さい

|                  |  |
|------------------|--|
| 代表者氏名            |  |
| メンバー名<br>(同室利用者) |  |
|                  |  |
|                  |  |
|                  |  |

結果のご連絡先

ご希望の連絡方法をお選び下さい( にレ点)

(原則メールでの返信となります)

E - MAIL : \_\_\_\_\_

電話番号 : \_\_\_\_\_

F A X : \_\_\_\_\_

(連絡先)

所属 \_\_\_\_\_

お名前 \_\_\_\_\_

No.

《 記入欄はここまで 》

(事務局処理欄)

月 日 受付

|                   |                      |     |
|-------------------|----------------------|-----|
| 受付 (            ) | 結果連絡済 (            ) | No. |
|-------------------|----------------------|-----|

### 3. 調査・企画委員会の2005年度活動報告と2006年度活動計画

調査・企画委員会では公募により「高度実践防災戦略支援システムの開発」、及び「企業の災害時業務継続計画（BCP）の基本的考え方に関する研究」の2つの小委員会を立ち上げ、2005年度から活発な活動を開始し、幅広い話題提供と議論を行ってきた。2006年度には、防災戦略に関する調査を実施し、また各小委員会の多様な論点を整理して目指す成果や方向を明確化して研究を促進していく予定である。

調査・企画委員長 村上ひとみ(山口大学)

#### A. 小委員会「高度実践防災戦略支援システムの開発」

主査・荻本孝久(神奈川大学) 幹事・伊村則子(武蔵野大学)

##### 1. 2005年度の活動報告

首都圏直下型地震を始め東海・東南海・南海地震や宮城県沖地震など多くの地域で大地震発生の切迫性が指摘されている。これらにより想定される地震災害に対して、多くの防災対策・活動が展開され被害の軽減化を図る取り組みが行われている。地域防災に関連する行政・民間企業・自主防災組織など組織間の意識と相互連携による地域の防災力評価についても検討されている。その結果、地域防災戦略の要点である地域の防災に関する情報が共有化されておらず、並列的にある多種多様な情報の下に、有効な戦略構築が十分に行われていない傾向が認められた。本委員会ではこれらの情報を整理し、要点を踏まえた実践的かつ具体的な防災戦略を構築する支援システムを検討することを目的として設立した。

2005年度後期から活動を開始し、以下のように4回(第1回-4回)の小委員会を開催した。

- 第1回 -

日時 2005年7月30日(土) 15:00 - 17:30 日本女子大学目白キャンパス  
委員会メンバー構成の紹介と活動方針の検討および確認

- 第2回 -

日時 10/19(月) 15:00 - 17:30 日本女子大学目白キャンパス  
話題提供担当

荻本委員: ウェブ上で公開された防災ツールのデータベース化とその共有化に関する分析  
新聞記事のデータベースによる阪神・淡路大震災の復旧・復興過程の分析  
阪神・淡路大震災の復旧・復興過程に関する時系列分析に関する研究  
阪神・淡路大震災復興10年総括検証・提言報告

伊村委員: アンケート結果からみる自主防災組織の活動実態

- 第3回 -

日時 12/19(月) 15:00 - 17:30 日本女子大学目白キャンパス  
話題提供担当

石川委員: 防災力を高めるための防災教育に関する研究  
藤本委員: 大学キャンパスの安全管理マッピングシステムの開発

- 第4回 -

日時 2006年 2/25(土) 14:00 - 16:30 日本女子大学目白キャンパス  
話題提供担当

栗山委員: 津波防災地図作成ワークショップ at久良地区 in愛南町  
水田委員: 時空間GISを用いた緊急通報現場特定支援システムの検討と試作  
- 消防活動支援のための土砂災害情報システムの構築 -

上記委員会活動で実施された話題提供や情報提供から、初年度は既に公表されている多種多様な防災システムや防災関連情報を収集・整理して、防災戦略の支援システムを構築するため目的・意図や適用対象に関する分類を行う。

##### 2. 2006年度の活動計画

小委員会活動としては、当初から3年間の活動計画を以下のように設定している。

1年度: 既に公表されている多種多様な防災システムや防災関連情報を収集・整理して、目的・意図

や適用対象に関する分類を行う。

- 2年度：地域特性を考慮して、実践的な防災戦略構築の需要や要望について調査(アンケート)し、具体的な防災戦略の支援システムを検討する。
- 3年度：近年切迫性が指摘されている東海・東南海・南海地震等の予想被災地域を視野に入れて、より実践的な防災戦略に適用可能な支援システムに関する調査・研究を展開する。

この計画に基づいて、自治体，民間企業，自主防災組織などを対象として、広い視点から実践的な防災戦略を考慮しつつ、その具体的な支援システム構築をめざす予定であり、2006年度は実践的な防災戦略構築の需要や要望について調査(アンケート)し、具体的な防災戦略の支援システムを検討する。  
(文責：荏本孝久・伊村則子)

## B．小委員会「企業の災害時業務継続計画（BCP）の基本的考え方に関する研究」

主査・矢代晴実（東京海上日動リスクコンサルティング（株））、幹事・新井伸夫（（財）日本気象協会）

### 1．2005年度の活動報告

阪神淡路大震災、米国同時多発テロ、SARSなどの教訓を踏まえて、災害時などにおいても業務を継続し、企業等を存続させるための業務継続計画（BCP）への関心が高まっている。しかし、その内容は多岐にわたり内容に関しても必ずしも統一的な考え方が確立しているとは言い難い状況である。そこで、BCPとはなにかについて整理するとともに、リスクマネジメントや危機管理におけるその位置付けを明確にすることを目的として本小委員会を設立した。

2005年度には、以下のように4回（第1回-第4回）の小委員会を開催した。

#### - 第1回 -

日時 2005年5月31日(火) 17:30-19:30 東京海上日動リスクコンサルティング(株)会議室

委員会メンバーの紹介と当面の運営スケジュール、体制について議論

委員からの話題提供

宮村委員：民間企業の地震リスク認識と対策

丸谷委員：内閣府における事業継続ガイドラインの検討状況

#### - 第2回 -

日時 2005年7月14日(木) 17:30-19:30 東京海上日動リスクコンサルティング(株)会議室

委員からの話題提供

田和委員：日・欧・米の主要企業のリスク・マネジメントへの取り組み状況

東海豪雨における地場の企業の対応

新井委員：緊急地震速報の利活用に関する企業の意識

丸谷委員：内閣府における事業継続ガイドラインの検討状況

#### - 第3回 -

日時 2005年9月22日(木) 17:30-19:30 東京海上日動リスクコンサルティング(株)会議室

話題提供担当

紅谷委員：2004年の水害における豊岡市、鯖江市の地場産業の復旧・復興

永松委員：福岡市天神地区の商業施設における福岡県西方沖地震直後の対応状況

新潟県中越地震後の小千谷市商工業を例とした、地域経済の復興を視野に入れた災害対応のあり方

丸谷委員：内閣府における事業継続ガイドラインの検討状況

#### - 第4回 -

日時 2005年12月9日(金) 17:30-19:30 東京海上日動リスクコンサルティング(株)会議室

委員それぞれが、興味のあるテーマや取り組みたいテーマについてのメモを持参・提出し、今後の小委員会の活動の方向性について議論

### 2．2006年度の活動計画

昨年度の第4回では、小委員会としてどのような研究テーマを掲げて活動をしていくべきか、活動はどのように進めていくのがよいかといったことについて議論を行ったが、委員各位から提案された研究テーマが多岐にわたっていたため、結論を得るまでにはいたらなかった。そこで、2006年度の前半、改めて小委員会にて研究テーマについての議論を行い、研究テーマを絞り込むとともに研究の進め方についても方針を固め、その後、具体的に検討を実施していく予定である。

(文責：矢代晴実・新井伸夫)

## 4. 2006 年度役員選挙結果のお知らせ

会員各位

2006 年 3 月 25 日  
地域安全学会選挙管理委員会  
委員長 岩田孝仁

### 2006 年度地域安全学会役員選挙結果のお知らせ

2006 年 3 月 25 日に選挙管理委員会において投票用紙を開票した結果、役員候補者（理事 12 名、監事 1 名）全員について信任票が有効投票数の過半数を超えたため、役員候補者全員を信任とみなし次期役員の出選者とします。

記

有効投票数：213 票

当選者：（理事）系井川栄一、大西一嘉、岡田成幸、佐土原聡、塩野計司、  
高梨成子、田中聡、中林一樹、林春男、宮野道雄、村上ひとみ、  
森伸一郎 以上 12 名  
（監事）井野盛夫 以上 1 名

以上

## 5. 役員選挙規定の改正について

### 地域安全学会役員選挙規定の改正について

地域安全学会理事会

地域安全学会役員選挙規定に無投票当選の規定を追加するため、選挙規定の改正について、5 月開催予定の総会で会員の皆様に審議していただく予定です。改正案を以下に示しますので、あらかじめお目通しの上、総会でご審議いただきますようお願いいたします。

記

地域安全学会役員選挙規定第 11 条の次に第 12 条として次の条項を追加する。なお、現行の第 12 条以下の条項は順送りとする。

追加条項（案）

第 12 条 候補者が所定数に満たない又は同数の場合には、候補者全員を無投票当選とする。

以上



## 6. Information

### (1) 地域安全学会設立 20 周年記念行事と秋季研究発表会について

地域安全学会は 1986 年 12 月に「生活者の立場から地域社会の安全問題を考え、地域社会の安全性の向上に寄与する」ことを目的として設立されました。今年、この学会設立から 20 年という節目の年にあたります。これを記念して、地域安全学会の設立目的とこれまでの歩みを再認識し、新たな発展を目指すための記念行事を行ことといたしました。2006 年秋季の研究発表会と連続して記念行事を実施します。また多くの学会員に参加していただくとともに、一般参加者の利便も考えて、東京都心近くで行うことに決定いたしました。下記の日程を皆様の予定表に入れておいていただくとともに、多くの方にご案内いただきますようお願いいたします。

#### 1) 2006 年度・第 18 回地域安全学会研究発表会(秋季)

日時：2006 年 11 月 23 日(祝), 24 日(金)

場所：東京大学生産技術研究所 駒場リサーチキャンパス

〒153 - 8505 東京都目黒区駒場 4 - 6 - 1

京王井の頭線 駒場東大前より徒歩 10 分

<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/map/index.html>

発表形式：従来通り、査読論文の口頭発表と一般論文のポスター発表を予定しています。

#### 2) 20 周年記念シンポジウム『地域の安全・安心 - これまでの 20 年、これからの 20 年 - 』

日時：2006 年 11 月 25 日(土) 14:00 - 17:00

場所：虎ノ門パストラル 本館 葵 (定員 300 人)

東京地下鉄日比谷線 神谷町駅より徒歩 2 分

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-1

<http://www.pastoral.or.jp/>

参加対象者：学会会員、防災担当者、一般市民 (参加無料)

プログラム(案)：

記念講演 「地域社会の安全・安心 20 年のあゆみ」

伊藤 滋 (地域安全学会初代会長, 早稲田大学特命教授)

パネルディスカッション「迫りくる巨大災害と地域の安全・安心」

パネリスト 濱田 政則(早稲田大学)

熊谷 良雄(筑波大学)

林 春男(京都大学)

市川 啓一(株)レスキューナウ)

鍵屋 一 (板橋区役所)

司会 重川 希志依(富士常葉大学)

資料：「地域安全学会の 20 年の歩み」と「シンポジウム・レジメ」を作成し配布します。

#### 3) 20 周年記念パーティ

日時：2006 年 11 月 25 日(土) 17:30 - 19:30

場所：虎ノ門パストラル 新館 6 F アジュール

参加対象者：学会会員、特別招待者

参加費：8000 円程度 (定員 120 名)

(2) 第36回安全工学シンポジウムの開催 - 安全、安心でゆとりある社会の実現を目指して -

主催 日本学術会議

共催 安全工学会, 化学工学会, 火薬学会, 計測自動制御学会, 色材協会, 自動車技術会, 静電気学会, 地域安全学会, 電気化学会, 電気設備学会, 電子情報通信学会, 土木学会, 日本化学会, 日本火災学会, 日本機械学会, 日本技術士会, 日本経営工学会, 日本計算工学会, 日本原子力学会, 日本建築学会, 日本高圧力技術協会, 日本航空宇宙学会, 日本材料学会, 日本シミュレーション学会, 日本信頼性学会, 日本心理学会, 日本船舶海洋工学会, 日本素材物性学会, 日本デザイン学会, 日本鉄鋼協会, 日本人間工学会, 日本燃焼学会, 日本非破壊検査協会, 日本プラントメンテナンス協会, 日本溶接協会, 日本流体力学学会, 日本冷凍空調学会, 腐食防食協会, 粉体粉末冶金協会, 溶接学会, 電気学会(幹事学会)

協賛 応用物理学会, 日本金属学会, 日本知能情報ファジィ学会, 日本膜学会, 日本マリンエンジニアリング学会, 日本ロボット学会, 有機合成化学協会

会期 2006年7月6日(木), 7日(金)

会場 日本学術会議 講堂, 2階大会議室及び6階会議室(東京都港区六本木7-22-34)  
〔交通〕東京メトロ・千代田線「乃木坂」駅下車1分

特別講演: 2題

7月6日(木) 13:00~14:00

鉄道運行に関する安全対策と安全工学の役割 工学院大学 教授 曾根 悟

7月7日(金) 13:00~14:00

エネルギーマネジメントと技術者の使命 東京工業大学 名誉教授 深尾 正

パネルディスカッション: 2題

7月6日(木) 14:20~17:00

外部・内部からみた<安全な組織・職場とは, 安心できる組織・職場とは, 如何なることか?>

7月7日(金) 14:20~17:00

事故調査体制のあり方について(事故調査と免責・補償小委員会報告に関連して)

オーガナイズドセッション: 10セッション 57題

A. き裂検査の現状と、き裂検出材の開発および実用化

B. スマトラ沖地震津波の教訓と安全

(地域安全学会より提案: 7月6日 14:20-16:20 オルガナイズド・座長: 山崎文雄)

C. 化学物質のハザードコミュニケーション

D. 医療の安全と健康

E. 建設における安全問題

F. 社会の安全, 安心に貢献する赤外線サーモグラフィ

G. 電気設備と災害安全対策

H. ビルの安全環境と BACS (ビル自動管理制御システム)

I. 高電圧・放電・静電気による障害とその安全対策

J. 爆発危険場所の電気安全に関するリスク評価方法の国際整合

一般セッション: 53題

参加登録費 入場無料。講演予稿集は当日会場で実費頒布(1部5,000円, ただし, 学生は1部2,000円で頒布いたします)

懇親会 7月6日(木) 18:00~20:00 「はあといん乃木坂」。会費4,000円。

参加登録申込方法 自由参加。当日直接ご来場下さい。

問合せ先 〒102-0076 東京都千代田区五番町6-2 HOMAT HORIZON ビル8階

電気学会 第36回安全工学シンポジウム事務局〔担当: 森 正美, 佐々木敏男〕

電話 03-3221-7313 FAX03-3221-3704 E-mail: anzen@iee.or.jp

ホームページ: <http://www.iee.or.jp/honbu/anzen2006.html>

シンポジウムの詳細プログラムは, 電気学会(幹事学会)ホームページにて随時公開いたします。



地域安全学会ニュースレター  
第 55 号 2006 年 4 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局  
〒135-0052 東京都江東区潮見 2-10-24 カテナビル 5 階 カテナ株式会社内  
Tel : 03-3615-3026 Fax : 03-3615-4639  
E-mail : [iss@iss.info](mailto:iss@iss.info)  
H P : [www.iss.info](http://www.iss.info)

次のニュースレター発行までの最新情報は、学会ホームページ（[www.iss.info](http://www.iss.info)）をご覧ください。